

パンと自由

昭和六年五月十日印刷
昭和六年五月十日發行

東京市外吉祥寺三丁目七番地
發行所 黒色職權社
星野準二

東京市外吉祥寺三丁目七番地
發行所 黒色職權社
(振替東京二五二六四)

自分のことは

自分で！

自分達のことは

自分達で！

よ」と小學校で教へられたが、今の世の中ではそんなことは出来なくなつてしまつてゐる。

先づ第一に諸君は工場こうばで働いてゐるか成ひは百姓をしてゐるか、又はその他のどこで働いてゐてもいい。諸君が汗水ながして工場や田畠で働いたあげくには、諸君は諸君の造つた着物でも何でもがみんな工場主のものになつてしまつて諸君のものではないし、又小作料をとられ、税金や肥料代其他の借金に大部分を賣つて終はなくてはならないのだ。資本家は諸君の造つたものを安い賃金で取り上げてしまふ。そして高い値段で諸君に賣りつける。そして資本家は働いてゐないの

だ。地主も耕かやしはしない。そしてただ土地を持つてゐるが爲めに、諸君が食へなくても小作米をとり上げてしまふ。諸君は、自分の一家は勿論、諸君の仲間と一緒に自分達のいるものだけ造つて樂しく暮くりたいと思つても、それは出来はしない。「自分のことを他人にやらせる」金持の爲めに働かなくては生きることすら出来ないのだ。

「働いても働いても食へない」と云ふ悲しい言葉を聞いたことがあるだらう。政治家とか名士とか學者とか云ふ連中はそれは働はたらきがたりないのだと云ふ。しかし諸君は眞面目に働いてゐながら生活は苦しい。そして地主や資本家は何もしないで酒をくらひ、女をもてあそんでゐる！

これは決して自分達のことは自分達でやることではない。

又諸君は今いまは議會ぎいもあり、市町村は自治體じたいだと云ふことを聞いてゐる。だが、代議士だいていしの一人にでもほんとうに諸君の代表者だいしやがあるか？ 市町村議員は諸君の求

諸君は「自分のことは自分でする」と云ふことは良いことだと思つてゐるに相違ない。自分は坐すわつてゐて、他人に自分の用事ようじを命令めいれいして、その人が嫌いやでも仕事をさせると云ふことは、金持共のやることで、諸君はそんなことは大嫌いなのだ。だが諸君は、「自分のことは自分でせ